

同友しずおか4

2021
VOL.509



私の逸品

(株)中里メッキ

メッキで製品をサビから
守る技術



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1053 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
むとう や 武藤 裕也	(有)ミートショップ富士竹 小売業(食肉販売業)	御殿場	前原 毅
あかいけ まこと 赤池 誠	(株)赤池電器 家電販売(家電品の販売・修理、電気工事)	富士	加藤 登久
いなば じゅんこ 稲葉 純子	(有)すみ企画 美容師業(美容室、犬の美容室、送迎美容)	富士宮	宇佐美健介
みの としゆき 箕 俊行	朝霧乳業(株) 食品製造業(牛乳・乳製品の製造販売)	富士宮	阿久澤太郎
くぼ よしみち 久保 佳通	(株)クボバン 建築板金(屋根・板金工事)	榛南	高橋 章仁
かつやま くにこ 勝山 邦子	(有)勝山不動産 不動産業(不動産仲介業・管理)	浜松	渡邊 礼子

名義変更による新名義人(敬称略)

氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人
はっとり まさる 服部 勝	(有)高田建材 窯業・土石製品製造業(生コンクリート製造販売、産業廃棄物中間処分・収集運搬、RC砕石製造販売)	御殿場	高田 光雄
わたなべ なおこ 渡邊 奈生子	朝日生命保険(相)御殿場営業所 生命保険(個人向け生命保険商品の販売、企業向け生命保険商品の販売、個人・企業向け損害保険商品の販売)	御殿場	早坂 悠
すねや だいすけ 強矢 大輔	エコフィールド(株) 建設業(木造戸建て注文住宅、木造施設の新築、リフォーム、リノベーション、不動産、外構工事)	富士	強矢 到

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。



メッキで製品をサビから守る技術 ～守るのは金属だけではない、雇用 を通じた地域の未来～

(株)中里メッキ (富士宮支部)

代表取締役 渡邊 昌和氏



メッキ加工の作業風景

社員との良質な コミュニケーションをはかる

(株)中里メッキは、メッキ加工をはじめとした表面加工のプロフェッショナルとして1948年に創業。亜鉛メッキ、カチオン塗装など幅広い表面処理技術で主に自動車・家電・住宅建材・各種部品等の表面加工を行っています。

渡邊氏は2018年の社長就任前、同友会の先輩に社員とのコミュニケーションの大切さを教わり、社員の履歴書を何回も見て、全員の名前を覚え、家族構成も頭に入れたそうです。そのおかげで今では会話もはずみ、円滑なコミュニケーションをはかることができているといいます。

経営理念が、会社のスタイルを 明確にした

経営者として同友会で学びを重ね、社長就任前の2016年に経営理念を策定できたことで、経営方針を社員にわかりやすく伝えることができ、実践に繋げることができているそうです。「表面処理は未来を『まもる』(今が未来につながる)」という経営理念を掲げ、5つの「まもる」を社員と実践していると話してくれました。

【雇用を守る】 地域での雇用

に積極的に取り組み、17年前には60名程度だった社員が現在では85名になっています。障がい者雇用についても、先代社長の代から取り組みを継続しています。

【日々の和を守る】 社員の定着率をあげ、若手から経験者まで幅広い雇用を維持することで、先輩から後輩への技術継承が十分にできる体制をつくっています。

【信頼を守る】 分析室をつくり、徹底した調査・検査を行っており、社内ネットワークで各現場にも情報が伝達できるよう整備しています。

【地球環境を守る】 長年の経験・知恵を活かして、汚水処理の設備を自社で設計・製造し、現場の環境に合ったかたちで更新しています。

【技術を守る】 技術の継承と新技術の開発、開拓に日々取り組んでいます。コロナ禍で自動車業界の仕事が減少した際にも、社内に設けられた研究室であるゆる商品を試作。ペダル式の消毒スプレー噴霧器を開発し、す



ペダル式消毒スプレー噴霧器

でに数百台を販売しています。富士宮市役所はじめ公的機関、民間企業など様々な場で利用されています。

表面だけではない、内面も守る！

従来のメッキ加工は素材の「表面」の加工を行うものですが、ニーズに応じて金属部品の「内面」までメッキができる仕組みを研究開発。この技術開発には、社員の知恵と工夫を重ね、「うき」を活用してメッキ槽の中で金属が回転する動きを考え出したことで、実用化に繋がったといえます。「鉄は社会の必需品であり、どんなに大変な時期も、こうした技術の継承と革新を継続していくことで必ず乗り越えていけるはず」と語る同氏の笑顔がとても印象的でした。



調査・検査を行う分析室



内側をメッキした部品

同社の最大の逸品は、製品そのものではなく、そうした技術、雇用、笑顔、未来をつくるコミュニケーションなのかもしれません。

取材・記事：田邊 元裕氏

(南カボスメディアワークス、富士宮支部)

(株)中里メッキ

〒418-0111 富士宮市山宮3507-23

TEL : 0544-58-5550

URL : <http://nakazatomekki.com>

創業 1948年

社員数 85名

入会年月 2003年10月

事業内容 メッキ加工業(自動車部品・電化製品部品の表面加工)

お客様の要望にこたえる地域密着の内装会社として

(株)ミキ

代表取締役 三木 清夫氏 (静岡支部)



三木 清夫氏

静岡市で店舗や住宅の内装工事を営む(株)ミキの三木清夫氏を訪問しました。創業は今から50年前の1972年5月。三木氏の父、富男氏が開業しました。三木氏が代表になったのは2009年。順調に売上を増やし、2013年に法人化しました。昨年社屋を移転し、現在は親族と従業員合わせて5名体制で営業しています。

地域密着の内装会社

主な顧客は、工務店や不動産管理会社。声を掛けられた仕事はどれだけでも断らないことが売上を順調に伸ばしてきた秘訣です。また、職人の技術を生かした丁寧で高品質な仕事が強みで、トータルインテリアの提案をはじめ、お客様の要望に合わせてクロア張替・床カーペット工事などを手掛けています。また、調湿・脱臭効果がありデザイン性も高いエコカラットや高級感のある化粧フィルムなど特殊な壁材も扱っています。エコカラットは新社屋の



エコカラットが貼られたオシャレな打ち合わせセルーム



昨年移転した社屋

打ち合わせセルームにも使用されており、オシャレな空間を演出しています。近年はコロナ禍で仕事は減ったものの、普段から相当数外注に出していたこともあり、内製化することで、それほど打撃は受けていないと言います。普段から仕事を断らなかつたことが功を奏しているようです。今後は下請け仕事でなく、一般のお客様から直接受ける仕事も増やしていきたいとのこと。

職人から経営者へ

同友会への入会は7年前、若杉幸秀氏(旬ティーパワー・静岡支部)の紹介で入会しました。ここ2年は支部の組織委員長としても活躍しています。入会以前は経営者としてのスキルを全く持たないただの職人でした。入会し様々な経営者との交流や例会での勉強を通して、経営に對しての考え方が変わってきたといいます。さらに今期は経営指針を創る会にも参加し、社員にも相談しながら経営指

針を創りあげました。会社の将来について積極的に社員に相談したところ、若い社員にも賛同を得られたのが嬉しかったそうです。現代に通用する内装会社を目指して

現在の悩みは若い人が入らないことだと三木氏は語ります。日頃から採用活動はしていますが、若い人からの問い合わせが全くないそうです。「今年からは採用活動にもお金をかけ、WEBを活用した採用活動も増やしていきたい」と同氏。さらに「週休二日制等の労働環境を整備し、現代に通用する会社にしていきたい」と展望を語りました。

取材・記事：藤本浩氏

(プリントバリエー) (株)ミキ 静岡支部

(株)ミキ

〒420-0804 静岡市葵区竜南1-17-50

TEL : 054-246-8672

URL : <https://miki-i.com/>

創業 1972年

設立 2013年

社員数 5名

入会年月 2014年9月

事業内容 内装業 (リフォーム・クロス・じゅうたん・長尺シート・フロアータイル・カーテン・ブラインド・ロールスクリーン・ガラスフィルム・エコカラット・ダイノックシート他)

会員訪問記

同友会と自社成長のあゆみ

(株)ジープロシューマーズ
代表取締役 小林修氏 (富士支部)



山田冬人氏 (左) と小林修氏 (右)
QRコードより会社HPにアクセスできます

同友会と本気で関わるようになったきっかけ

小林氏は27才の時にソフトウェアのメーカーを目指して1985年に創業。当時は準備も戦略もなく、苦勞が絶えず将来に不安を抱える日々だったそうです。そんな中「人前で話すことが上手くなるよ」という理由で同友会に誘われ入会しました。ただ、初出席の例

会でのグループ討論に圧倒され、それを最後に1年ほど参加しない期間が続きました。しばらくして富士支部同友会まつりの実行委員に抜擢され、企画・運営の手伝いをしたことが同友会との本気の関わりが始まりだったといえます。現在小林氏は支部内で「よろず相談会」という会員同士が気軽に相談し合える場を主催しています。



社員のみなさん

同友会と共にリーマンを乗り越える

「同友会はとにかく学ぶ会だと知り、支部はもちろん全国大会や中同協の書籍などから学び、毎年の経営指針発表会、毎月の社内報発行、定期的な新卒採用など多くを真似して実践していきます」と語ります。また「リーマンで一気に落ち込んだ2008年に東京へ営業所を出したのは同友会の学びから下した判断だったと思いますし、翌年の

2009年1月の中同協幹事会声明「全会員に訴える緊急アピール」は大号泣しながら読みました」と、同友会と共に荒波を乗り越えてきた自社の経緯を語ってくれました。

社員と経営指針書でバズセッション

同友会に参加するまで経営理念・指針という言葉を知らなかった小林氏。支部の泊りがけの経営指針委員会で経営指針書を成文化したそうです。しかし模造紙1枚で作成したものを、数年間は発表することなく机の中に眠らせていたといいます。その後、創立20年を機に、ホテルグランド富士で取引先や銀行・同友会・議員など社内外に向けて初めて指針発表会を行った時のことを「暴挙だった」と懐かしく振り返ります。今では社内で経営指針を發表し、それをもとに社員とバズセッションを行っているそうです。

情報を捉えるアンテナは「高さ」より「形」

時代の変化について同氏は「中



社屋外観

(株)ジープロシューマーズ
〒416-0931 富士市蓼原1054
TEL : 0545-32-9300
URL : http://www.zpro.co.jp
創業 1985年
社員数 9名
入会年月 1999年3月
事業内容 システム開発、パッケージアドオン、webシステム開発、クラウド化支援、システムの保守・サポート・管理

取材・記事：山田冬人氏 (株)エンジニアメント・富士支部
小企業でも今やYやクラウドからDXという別次元のニーズに変わっていますね」と語ります。コロナ禍などで社会が一気に変わる中、変化を捉えるために常にアンテナを高くといわれますが「高さ」より「形」が大切だと考えているそうです。「情報を捉え、経営課題を解決するのに必要なアンテナの形はそれぞれです。私はピシッと整った形でなく、端のほう少しひしゃげた色々な形のアンテナを軒先にたてるのがちょうどいいのでそうしています」と同氏。色々な局面で同友会から学びを得ながら経営に生かしていることが伝わる取材でした。

中小企業問題全国研究集会 from 福島

「中小企業家の志が日本の未来を拓く」

3月13日（土）開催：オンライン

第51回中小企業問題全国研究集会 from 福島がオンラインで開催され、全国から983名、静岡から20名が参加しました。

「中小企業家の志が日本の未来を拓く」をスローガンに、今回は東日本大震災復興シンポジウムと題し記念講演、パネル討論、テーマ別報告が行われました。記念講演では「福島第一原発事故は日本人に何を問



門田 隆将氏

かけたのか」と題し、門田隆将氏（作家・ジャーナリスト／映画「Fukushima 50」原作者）が登壇。福島原発事故発生時に発電所に留まって対応した約50名の作業員たち取材した経験をもとに、マスコミに惑わされずに正しい情報を知ることの大切さ、そして未知の状況に挑み、日本を救った福島原発従業員の勇姿を伝えました。パネル討論では「あれから10年」と題し、柄修・中同協相談役幹事をコーディネーターに岩手・宮城・福島同友会の3名の役員より、会員同士の強い絆のもと「我ら断じて滅びず」をスローガンに活動を続けてきた成果や課題を報告しました。田村満氏（株）高田自動車学校・岩手同友会代表理事）からは「一社もつぶさない」志で会員企業同士が協同で事業を立ち上げ、発酵パークCAMOCYをオープン、若い人が地域に戻りつつあると話しました。鍋島孝敏氏（日東インシタ株）宮城同友会代表理事）からは、白石市で中小企業振興基本条例をつくり、農業の第6次化事業を推進していると報告、「地域の課題を自社の課題に落とし込むことが重要」と話しました。渡部明雄氏（アース建設株）福島同友会副理事



パネル討論「あれから10年」

（長）からは、他と比べ会員企業の再開が早かったのは各社で経営指針書を創っていたおかげだと話し、震災後に福島同友会で作成した「復興指針書」が役立ったと報告しました。第2部では中山英敬・中同協幹事長より問題提起があり、3名の会員経営者が「災害やコロナ禍の中小企業問題」をテーマに経営実践を報告しました。閉会あいさつでは中山幹事長が「激変の時代だからこそ同友会理念を繰り返して学び、実践で深めることが大切。『復興』とはもとに戻ることではなく、人間らしく生きるための新しい基盤をつくることではないか」とまとめました。

参加者感想

記念講演は、東日本壊滅危機の原発事故現場で解決に当たった福島の人々の連帯感、責任感、信頼関係、オフレコも含め興味深く聞かせていただきました。風評被害でいまだに立ち直りきれない現状。本当に正しい情報の発信と人々の理解が広がり、早急に復興することを願うばかりです。と同時に、日本を救ってくれた福島の方々に感謝です。続いているパネル討論では、震災当時、全国の同友会会員から寄せられた義援金を、地元同友会会員と事務局で各会員事業所に早急に配り、残りは災害から復興するための協業事業に有効活用した事例など、災害時に心強く、立ち直りの早い同友会の姿がうかがえました。テーマ別報告では3社の事例報告を聞き、技術力はもちろんのこと、人を生かす経営、経営指針の成文化と実践を通して、地域とともに発展、存続し続ける企業創りのために、自社が何をすべきなのかを考えさせられました。人口減少、高齢化、自然災害、人的災害、コロナ禍の中、ピンチはチャンス！激変する現状をニューノーマルと捉え、企業の存続、発展を考え、心構える参考になった研究会でした。



忠内 秀敏氏
（南丸安ラジエーター工業所・沼津支部）

会員を知り、同友会に新たな仲間を増やしましょう！

～会員増強は我々ができる最大の地域貢献！～



海野委員長

組織増強（仲間づくり）に主体的に関わる県組織増強委員長の海野敦氏（海野サツシ商会・静岡支部）と副委員長の宇佐美健介氏（㈲エージェンツトウさみ・富士宮支部）のお二人にお話を伺いました。

○お二人が組織増強に関わるきっかけや取り組む中での想いを教えてください。

海野氏

私が入会した当初は自社の売上が減少し、どうしたらよいか分からない状況でした。そんな時に相談に乗ってもらった方に同友会を紹介してもらい、オプザーバーで参加その後、入会と同時に経営指針を創る会を受講しました。はじめは自社経営を包み隠さず話することに抵抗もありましたが、少しずつ同友会での学びを自社で実践していくことで業績が回復し、同友会の楽しさや魅力に気づくことができました。リーマンショック後、当時の私のように困っている仲間がたくさんいることに気づきました。そんな仲間同友会の魅力を伝え、結果として現在組織増強委員長を務めるに至り、2021年度で7年目となります。行事に

単発でお誘いするのではなく、とにかく同友会の魅力を伝え続けることで入会に繋がりました。

宇佐美氏

私は富士宮支部長時代（2013年度～2015年度）に会員増強を意識するようになりました。当時の私は「会員増強は同友会（支部）を活性化するため」と考え、

支部役員会で議論を重ねていました。支部長時代にはじめたことは、会員訪問カード「アタック25」を持つての会員訪問です。支部の会員企業を訪問し、会社の取り組みや現在の課題を聞き支部活動に反映することが目的ではじめた活動でしたが、仲間の優れた経営実践を聞く機会となり、さらにはそれを伝える機会にもなっていました。今でも続けているこの訪問が組織増強に関わる大きなきっかけとなりました。

同友会で共に学ぶ仲間が増えることで地域によい会社が増えます。そして、よい会社ではよい社員が育ち、よい社員はよい市民となり地域で活躍し、結果として豊かな地域を創造することに繋がります。この地域への貢献こそが会員増強をする意義だと考えるようになりました。今では「会員増強こそ我々ができる最大の地域貢献」だと確信を持って伝えられるようになりました。

○会員の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

海野氏

同友会に入会して最も魅力に感じていることは、共に成長したい仲間や目標となる経営者とたくさん出会えることです。そんな仲間との出会いが自社経営を発展させる

一番のエネルギーになると思います。ぜひ、自ら行動し多くの仲間との出会いを大切にしてください。これからも同友会で共に学んでいきましょう！

宇佐美氏

会員の皆さんには、同友会で学んで成長した会社や成功体験など数多くの生きた実践事例を知ることが大切にしてほしいです。訪問して直接会社の歴史や取組に触れることでその企業の強みが分かり、自社に置き換えるなどのように活用できるかが見えてきます。ぜひ、多くの会員と関わりを持ち、同友会の仲間でごんなりに素晴らしい企業があること、学んでよかったこと、変わることでできたことを身近な経営者仲間へ伝えてください。

※同封の「アタック25」をご活用して、会員や地域の経営者を訪問しましょう！



宇佐美副委員長

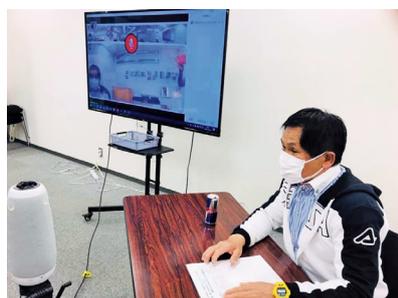
ぜひ同友会に地域の経営者をお誘いください！

4月 16日(金)	志太総会 (18:30 藤枝市文化センター&ZOOM)
21日(水)	伊東総会 (19:00 伊東商工会議所&ZOOM)
22日(木)	障がい者問題委員会 (18:00 ZOOM)
23日(金)	会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会と私～」(19:00 同友会事務局&ZOOM)
26日(月)	三島総会 (19:00 三島商工会議所&ZOOM)
27日(火)	県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
28日(水)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 県政策委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)

5月 6日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
12日(水)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア&ZOOM)
14日(金)	富士宮例会 (19:00 志ほ川バイパス店&ZOOM)



《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



3月26日(金) 同友会会議室&ZOOM

良い思い出を作るバイクと夢を叶えるためのサービスを提供する

3月26日(金) 同友会会議室&ZOOM

③イントロセミナー

オブザーバーや新会員にむけて同友会を知って頂く機会として、また大変革に挑む仲間との交流の場として毎月開催しているイントロセミナー。3月は同友会会議室、ZOOMあわせて12名が参加しました。太田誠氏(有M・C・S・KURITA・静岡支部)が同友会での学びと実践を報告。好きが高じてバイク販売事業を始めるも利益が出ず、このままではまずいと思っていた時期に同友会で経営指針を作成。その時に自社事業定義を見直したことが今の経営に生きているといいます。「バイクは良い乗り物であると広めたい」と自ら山を開拓し、自然の地形を活かしたコースをつくった太田氏。自然保護にも繋がるその取り組みが富士宮市で認められ「富士山を臨む日本一のレースをつくりたい」と今後の夢を語りました。その後「自身の夢、またその実現に向けて行動していることは何ですか」をテーマに活発なグループ討論が行われました。

次回のイントロセミナーは4月23日(金)に大池盛一郎氏(有カライフ静岡・志太支部)が報告します! ぜひ、オブザーバーと一緒に参加ください!

こんな企業、あったんだ!

スマホから同友会の世界を広げてみませんか?

YouTube

【わが経営を語る! 静岡社長TV】



会員経営者の実践報告を隔週で配信中!
現在第20回までアップされています!



自社経営に生きるヒントがたくさん!
チャンネル登録お願いします!

Facebook



各支部で開催される例会の情報や毎週配信!
その他、会員企業の取り組みやお役立ち情報などを配信しています

ページへの「いいね」お願いします!
いいねすることで、情報をfacebookで受け取れるようになります

ホームページ



同友会について詳しく知りたい方にピッタリなコンテンツがたくさん! 広報誌のバックナンバーもあります